

2001年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500hPa 高度では、極付近はシベリア側やグリーンランド付近で負偏差、北アメリカ側で正偏差となった。中緯度帯では、太平洋東部で負偏差、カナダやアメリカ合衆国で正偏差、大西洋で正偏差、ロシア西部で負偏差、中央シベリアで正偏差となり、明瞭な波列状の偏差が東西に分布した。

対流活動は中部インド洋から西部太平洋にかけての熱帯域で平年に比べ活発であった。また、太平洋上の熱帯収束帯 (ITCZ) は、太平洋中部で平年より活発、太平洋東部で不活発であった。一方、南半球では対流活発域の南下が平年と比べて早かった。

200hPa 速度ポテンシャルの分布図より、西部太平洋では、この地域の対流活発な状況に対応して大規模な発散が見られた。この発散域の東西軸はほぼ平年並の位置であった。南米やアフリカ大陸に見られる発散域は、対流活発域の分布に対応してそれぞれ平年よりも南東、南に偏っていた。

SOI (南方振動指数) は+0.7 (暫定値) と正の値に転じた。

世界の天候

① 中央シベリアの高温

ロシアのハタングでは月平均気温が -16.0°C で平年より 10.2°C 高かった。

② 朝鮮半島から南西諸島の少雨

中国ホーペイ (河北) 省では、この春以降の干ばつによる58万人分の飲料水の不足が伝えられた。

③ 東南アジアの高温

月平均気温はマレーシア付近で高く、一部で異常高温となった。

④ トルコ周辺の多雨

月降水量はトルコで多く、一部で異常多雨となった。トルコでは中旬に大雨の被害が報じられた。

⑤ 米国北東部の高温

月平均気温は米国で高く、北東部では異常高温となった。

⑥ 米国南部の多雨

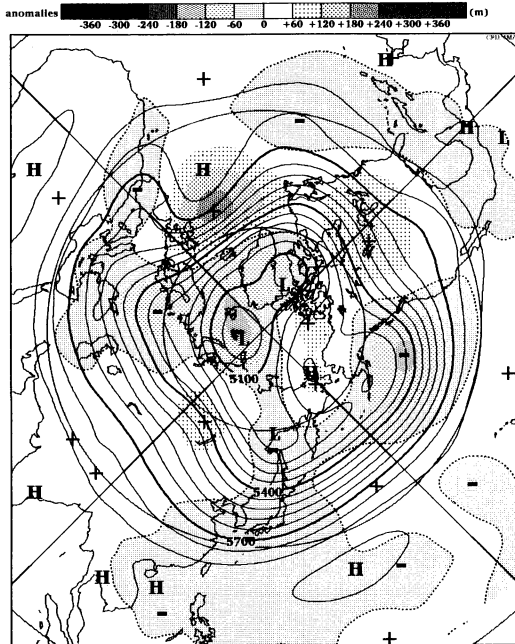
米国テキサス州、ミシシッピ州などでは嵐により合わせて20人の死者が報じられた。

⑦ 南米北部の高温

⑧ オーストラリア東部の多雨

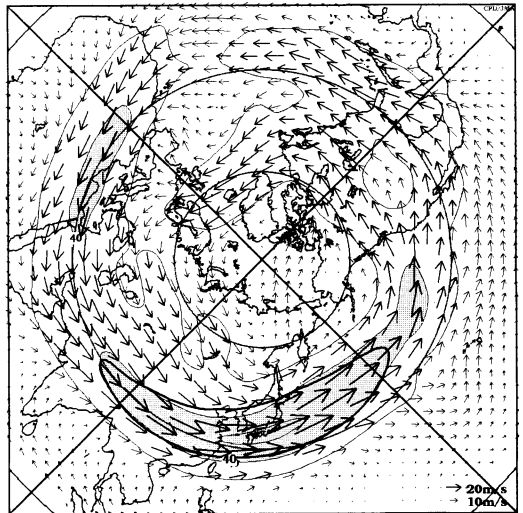
中旬にシドニーで嵐による被害が報じられた。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 藤田 匡)



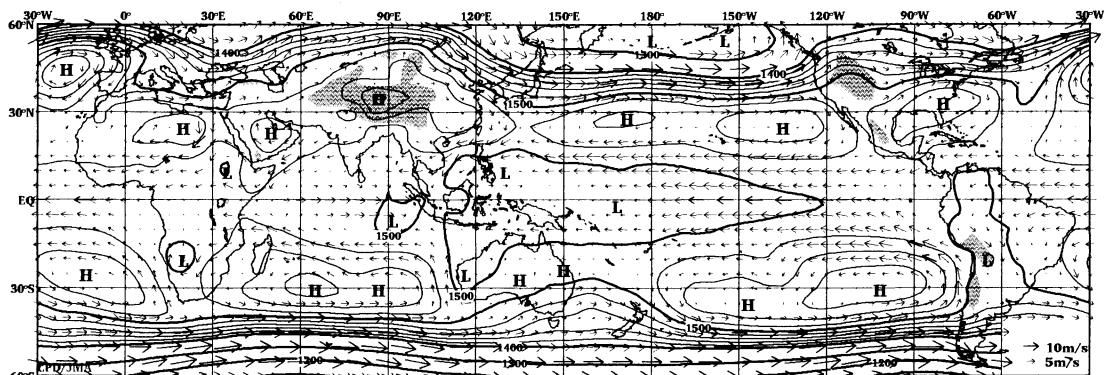
2001年11月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は60 m、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

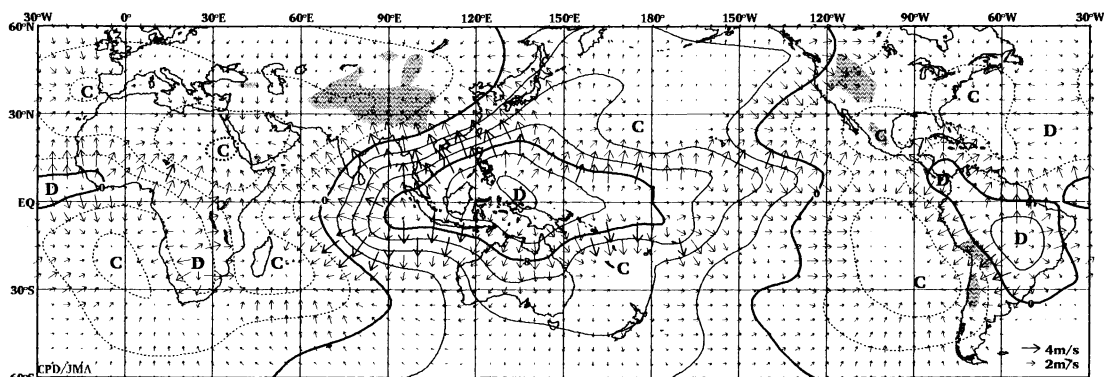


2001年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

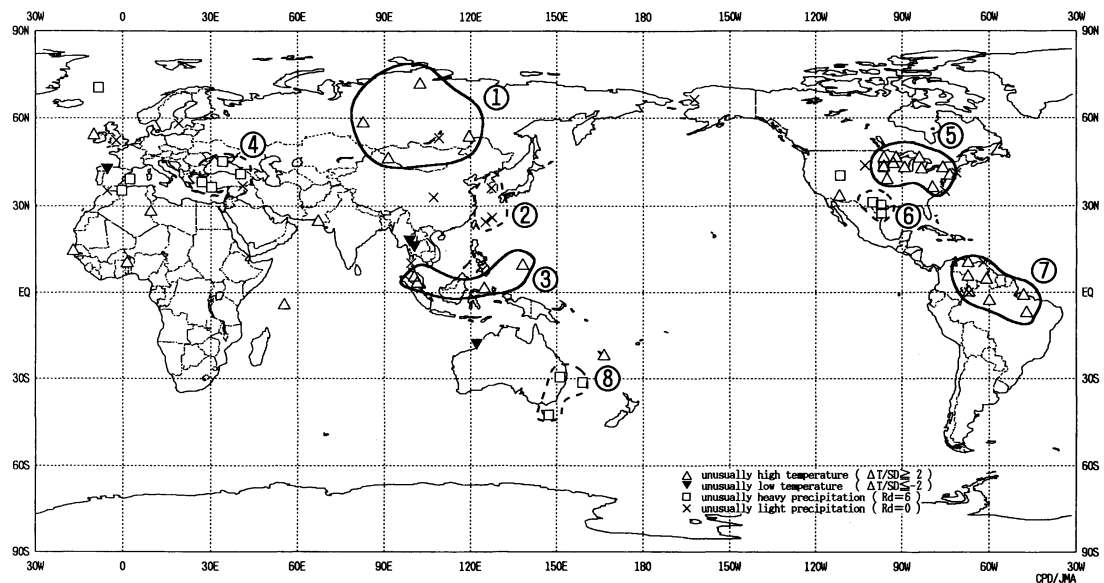
等値線間隔は20 m/s、陰影部は40 m/s以上、太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2001年11月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



2001年11月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2001年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.